

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
神経免疫疾患のエビデンスに基づく診断基準・重症度分類・ガイドラインの妥当性と患者 QOL の検証
分担研究報告書

（課題名） 髄鞘イメージングによる多発性硬化症の個別化医療の検討

研究分担者 中原 仁 慶應義塾大学 医学部 内科学教室（神経） 教授

研究要旨

多発性硬化症の医療水準と患者QOLの向上には、個別化医療の実践が求められる。この目的において髄鞘イメージングを用いた個別化医療の可否を検討した。結果、一部の多発性硬化症患者においては髄鞘再生が確認され、投与薬剤により細分類化したところ、一部の薬剤について、髄鞘再生に寄与し得る臨床要因を特定し得た。

A. 研究目的

多発性硬化症の髄鞘イメージングデータを集積し、個別化医療の実践に有用かを解析する。

証するには前向き比較試験が必要である。また髄鞘再生による長期的な神経保護効果についてはさらなる観察と解析が必要である。

B. 研究方法

髄鞘イメージングデータについては慶應義塾大学病院に通院中の多発性硬化症患者を対象に当該データを集積する。

E. 結論

髄鞘イメージングは多発性硬化症の個別化医療に資する可能性がある。

（倫理面への配慮）

慶應義塾大学医学部の倫理審査を受審した上で、該当者の文書による同意を得て、法律その他関連法規を遵守した上で実施した。

F. 研究発表

1. 論文発表
該当なし。

2. 学会発表

1) Jin Nakahara. Imaging neurodegeneration in MS – Beyond the T2 lesions. Pan-Asian Congress for Treatment and Research in Multiple Sclerosis (PACTRIMS). 2022年11月25日. シンガポール.

C. 研究結果

多発性硬化症患者の一部において髄鞘再生が確認された。投与中の薬剤により細分類化し、一部の薬剤については髄鞘再生に関連する臨床因子を特定し得た。

G. 知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む）

該当なし。

D. 考察

多発性硬化症患者において、髄鞘再生は自発的にも生じ得るため、投与薬剤との因果関係を立